

1 研究テーマ

学習意欲の向上による家庭学習習慣の定着を図る取り組み

～小・中のつながり、授業と家庭学習のつながりを重視して～

2 はじめに

「中学生になったら家で勉強しなくなった。」「小学生の時の方が家でたくさん勉強していた。」という保護者の声をよく聞く。ここ数年でのインターネット環境やスマートフォンの急速な普及にともない、家庭での学習時間はさらに減少していくことが考えられる。学力向上の視点だけでなく、生涯学習の視点からも家庭で学習する習慣を定着させたいと考えた。

3 研究目的

小学校では家庭学習の指導は学級担任が行い、家庭学習の内容と授業を関連付けやすく、内発的動機づけを高めやすいことが考えられる。そこで、中学校においても、家庭での学習が「できるようになるのが楽しいからする。」「難しい問題が解けると嬉しいからする。」というような内発的動機づけを高められる内容であれば、学習意欲が向上し、家庭学習の習慣が定着するのではないかと考えた。また、中学校においても家庭学習の内容と授業を関連付け、達成感を感じながら継続的に取り組むことができるようにしたいと考えた。

4 研究内容

(1) 研究仮説

授業と家庭学習に4つの取り組み（①学習目標の意識づけを図る ②「次の授業の予習」に取り組みさせる ③自己評価と振り返りに取り組ませる ④家庭学習と授業のサイクル化を図る）を加えることで、内発的動機づけが高められ、学習意欲が向上し、家庭での学習習慣が定着するであろう。

(2) 具体的な取り組み

①学習目標の意識づけを図る

- 目標と評価基準を明確に示した学習計画表の作成

2章 変化と対応（1時間目～5時間目）振り返りカード
【4章「変化と対応」の学習目標】
学習目標達成度評価シート
学習計画表
学習目標の意識づけを図る
学習目標の意識づけを図る
学習目標の意識づけを図る
学習目標の意識づけを図る
学習目標の意識づけを図る

【学習計画表に示された評価基準をもとに自己評価と振り返りを記述】

③自己評価と振り返りに取り組ませる

- 予習内容と授業後の理解度の評価
学習の振り返りの記述

④家庭学習と授業のサイクル化を図る

- 復習プリントの実施
予習内容を活用した学習課題の設定
次時の学習課題の予告

②「次の授業の予習」に取り組みさせる

- 予習プリントの実施
予習状況の班点検
予習動画の視聴
動画とリンクしたプリントの実施

「次の授業の予習」をさせるための家庭学習用予習プリント
予習プリントの表面
その日の学習内容の問題を印刷
（予習・授業・復習のサイクル化）
授業の最後に、その日の学習内容が理解できたかを確かめる評価問題（形成的評価）の欄
復習問題の解答を表面下部に印刷し、自己採点をさせた。

【教科書を読んだ後、問題を解く予習プリントと裏面の復習問題（前期実践）】

数学 第5時 座標
2. 座標が示す点の表し方
(例) x=2, y=3を座標平面上に点をとって表す。
関数では、この点をA(3, 4)と表す。
CHECK
点Aを表す数の組(3, 4)を点Aの座標という。
3をx座標、4をy座標という。

【基礎的内容の説明と練習問題の解説を行った予習動画（後期実践）】

(3) 実践の様子

【前期の授業実践】第1学年 数学科「文字式の計算」(10時間) 6・7月実施

【後期の授業実践】第1学年 数学科「変化と対応」(15時間) 10・11月実施

○予習の良さや重要性に気づくとともに、評価基準の達成により学習意欲が高まった振り返りをする生徒が見られた。

○継続的に予習に取り組んだ生徒の授業後や単元末の評価問題の正答率は、予習をしていない生徒の正答率よりも30%近く高く、学習内容の定着につながられた。

○従来、学校の授業で学習していた基礎的内容や練習問題を「動画」を利用して家庭で取りこませることで、授業では予習内容を応用・活用する問題に時間をかけて取り組ませることができた。

○予習動画により基礎的内容を理解する生徒が増え、予習で理解したことをグループで説明したり、予習内容を応用・活用した課題の解決に向けて話し合ったりする姿が多く見られた。

【予習の感想】

- ・授業中、難しくて分からないところがあったも、ここは予習で似たようなところがあったと思いだして理解できた。
- ・授業でする内容が分かっているから、何の説明をしているのかが分かりやすかった。
- ・勉強の時間が増えた。
- ・なぜ分かっているか気づけて、授業の時にどのように取り組みればよいか分かった。
- ・家でしっかりと予習をしてきたことで勉強が良く分かるようになったし、勉強することが楽しくなった。
- ・予習をする勉強の時間があるので、やってできていると楽しい。

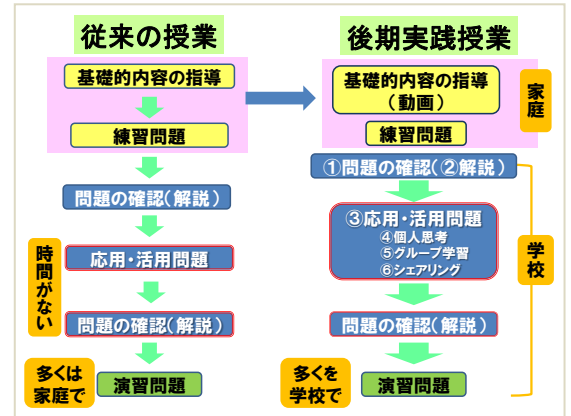
【予習内容の理解度と授業後の自己評価】

後期予習内容の理解度	授業後の自己評価	評価A	評価B	評価C
友だちに教えられると思う (18%)	30% (18%)	82%(95.5)	17.5%(3.4)	0.5%(1.1)
理解できたと思う (42%)	49% (42%)	31%(60.8)	67%(35.9)	2%(3.3)
分からないところも多かった (35%)	17.5% (35%)	15%(29.0)	58%(64.8)	27%(6.3)
予習をしていない (5%)	3.5% (5%)	13.5%(28.6)	35%(47.6)	51.5%(23.8)

()は前期の数値 評価A…十分理解できた 評価B…理解できた 評価C…理解できなかった

【予習による授業の振り返り】

<p>A 今日学習では比例の関係式に表すことをしました。比例定数を求めたり、文字の関係式に表すのはまだしなかった予習をうまく生かされたので良かったです。</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>A 予習動画を見たり予習してからくるととても勉強が分かりやすくなったと思います。</p> <p>B</p> <p>C 班員に教えることができたので良かったです。</p>
<p>A 予習動画をくり返したので、変化をグラフで表すことができてきました。</p> <p>B</p> <p>C</p>	<p>A 今日は比較的簡単な問題だったのでスラスラ解くことができました。予習の効果もあり、授業が楽しかったです。</p> <p>B</p> <p>C</p>



【従来の授業展開と動画による予習を行った授業展開(後期)】

5 研究のまとめ

次の3つのことが予習に対する意欲となり、予習の習慣化につながったのではないかと考えられる。

○「予習」をすることにより、授業の理解を深めることができた生徒が多く見られた。

○家庭での予習や復習によって達成できるような課題を設定し、その解決を学習目標として評価基準を生徒に分かりやすく示すことで、目標の達成に向けて意欲を高める姿も見られた。

○予習の時の理解度と授業後の理解度の比較(自己評価)により、予習の良さや重要性を実感する(振り返る)ことができた。

6 今後の課題

○基礎的な内容の予習は継続して取り組ませたい。さらに、授業の中で既習事項を確認したり、家庭学習に復習も取り入れたりしながら習熟を図り、学力を定着させていきたい。

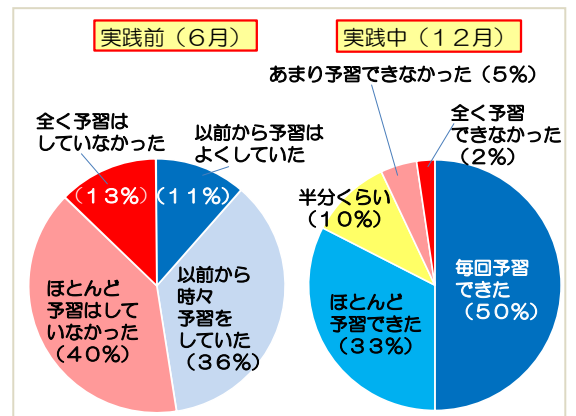
○授業や家庭学習の中で「やればできる」「やったらできた」という経験を積み重ねて自信につなげていく必要がある。そのためにも、生徒の主体的・能動的な学習を計画的に行い、成功体験や達成感をもたせていきたい。

○与えられた評価基準で自己評価するだけでなく、生徒自身が自分に合った目標を立て、その目標に対して自己評価させるなど、評価方法を工夫することで達成意欲や学習意欲を高めていきたい。

7 おわりに

この研究で、これまで取り組んだ経験がほとんどなかった「予習」に取り組むことができ、「予習」の成果を実感することができた。また、動画による予習という貴重な実践から、教材研究の重要性を学ぶことができた。

今後も、教材研究や評価の工夫により、生徒の学習意欲の向上を図っていきたい。



【予習の取り組み状況】